

別記様式2-2号



視察研修等報告書

令和7年9月17日

坂井市議会

議長 佐藤 寛治 殿

会 派 名 志 政 会
報 告 者 後藤 寿和

1. 日 時 令和7年8月19日（火）～21日（木）
2. 研修先 19日（火）～21日（木）
リファレンス駅東ビル
〒812-0013 福岡県福岡市博多区博多駅東1丁目16-14
3. 研修内容 19日（火）議会で光る質問力！
20日（水）生成AI（チャットGPT）の基礎
21日（木）財政問題の取り上げ方・人口問題の取り上げ方
4. 参 加 者 8月19日（火）～20日（水）古屋 信二
8月19日（火）～21日（木）上坂 健司、後藤 寿和
5. 責 任 者 名 後藤 寿和
6. 内容詳細
19日（火）議会で光る質問力！
 - ・『YES』と言わせる質問の型執行部を逃がさない質問術。一般質問で執行部が『答えざるを得ない』状況を作るテクニック
 - ・政策提案を武器に！『単なる批判』から『実現する提案』への転換。質問を通じて自らの政策を実現するプロセスを伝授
 - ・議場で存在感を示す議会質問の『間』と『リズム』を磨く。質問の内容だけではなく、伝え方・話し方で執行部と議場を掌握。
 - ・『いい質問ですね』と言わせる質問の作り方‘準備力’が勝負を決める！質問作成に必要な情報収集・リサーチ力の磨き方

20日（水）生成AI（チャットGPT）の基礎

- ・まずアプリを入れて触ってみよう
- ・AI にできて議員にできない事
- ・効果的な指示の方法や活用事例
- ・チャットGPTで簡単、質問づくりの下準備

21日（木）財政問題の取り上げ方・人口問題の取り上げ方

- ・財政ここをまず見てみよう
- ・あなたの町の決算カード配ります
- ・生成AIに指示する際の事例
- ・夕張の例に学ぶ財政破綻の足跡
- ・出生数70万人割れの衝撃
- ・自治体の人口減少を直視しよう
- ・生成AIに指示する指示事例
- ・これからの議員に必要なこと

7. 所見・感想等

議会で光る質問力！

【 古屋 信二 】

今回受講した宮本正一講師による「議会で光る質問力の特別セミナー」は、議員活動において極めて実践的で有意義なものでした。

まず、「質問内容と方法によって、住民や執行部からの評価が変わる」という指摘は強く印象に残りました。どれほど良い政策であっても、その伝え方次第で実現性が左右されるという点は、議会人として常に意識すべき核心だと感じました。また、質の高い質問は議場の空気を変える力を持ち、執行部を動かす原動力となるという視点も非常に学びが深いものでした。

そのための具体的な手法として、

- ・相手に「yes」と言わせる質問術の習得
- ・批判型から提案型へのシフト
- ・質問の「間」と「リズム」の重要性
- ・実践的なリサーチ力の向上

といったポイントを学ぶことができました。いずれも今後の議会質問において実践し得る内容であり、自らの質疑の質を高めるための大きなヒントになりました。

特に、「批判から提案へ」という姿勢は、住民からの信頼や執行部との建設的な関係構築につながるものであり、政策実現のための前向きな議会活動に直結するものと確信しています。

今回の学びを糧に、よりわかりやすく、より実効性の高い質問を心がけ、議場において空気を変えられるような質疑を実践していきたいと考えます。

【 上坂 健司 】

質問力とは議員力の本質であり、その三要素は情報収集力＋思考力＋表現力で、議員の質が決まるとの事。具体的には、実践ポイントとして、①準備が9割、質問が1割とし過去答弁、数値データ、他自治体事例など根拠材料を集め、相手の答弁パターンを想定して次の質問も準備する。②執行部をYESに誘導する質問技術。③建設的な政策提案につなげる。④議場での存在感を高める話し方。⑤質問から実現までの戦略設計。所感として、質問力は日々の積み重ねであり、学んだことを実践し、質問力が向上するよう取り組む所存である。

【 後藤 寿和 】

このたび「議会で光る質問力」のセミナーを受講しました。議員としての質問は単なる追及ではなく、市民の声を政策として実現するための重要なプロセスであることを改めて認識する機会となりました。

まず学んだのは「YESと言わせる質問術」です。執行部が否定できない事実や課題を段階的に確認し、小さなYESを積み重ねることで、逃げられない形で政策提案につなげる手法です。「検討します」という抽象的な答弁を許さず、「来年度予算で対応するのか」と期限や手段を明確に問うことが、実効性を高めると学びました。

次に重要だと感じたのは、質問を「単なる批判」から「実現する提案」へと転換する姿勢です。批判は一時的な印象にとどまりますが、実現可能性のある提案こそが市民の利益につながります。議会質問は政策形成の第一歩であり、自らのビジョンを市政に反映させる最大場であることを実感しました。

また、質問の内容だけでなく「間」と「リズム」の重要性も学びました。意図的に間を置き、問いの重みを浸透させることで執行部や議場全体に緊張感を生みます。抑揚をつけた話し方は市民にも伝わりやすく、議場での存在感を高めます。「いい質問ですね」と言わせる問いの作り方は、単なる言葉選びではなく準備と構成力の成果であると理解しました。

さらに、質問の成否を分けるのは徹底した準備力だと感じました。データ収集、他自治体の事例、市民の声を整理し、論理的に組み立てることが不可欠です。周到な準備に裏付けられた質問こそ、執行部を逃さず、政策実現への具体的な答弁を引き出せると感じました。

本セミナーを通じて、議会質問は「政策を実現するための武器」であり、存在感を示す絶好の場であると再認識しました。今後の一般質問では、学んだ技術を生かし、市民の声を実効性ある政策へとつなげていきたいと思います。

自分自身も市民との対話から一般質問のテーマが生まれることも多く、一つでも多く実現につなげていきたいと感じました。

生成 AI (チャット GPT) の基礎

【 古屋 信二 】

宮本正一講師による「議会で光る質問力の特別セミナー」を受講し、質問の内容と方法次第で住民や執行部からの評価が大きく変わることを改めて実感しました。質の高い質問は議場の空気を変え、執行部を動かす力を持つという講師の言葉は、今後の議会活動において常に念頭に置くべきものだと感じました。

学びの中で特に印象に残ったのは、相手に「Yes」と言わせる質問術、批判から提案へのシフト、質問の「間」と「リズム」、そして実践的リサーチ力の重要性です。これらは政策実現につながる質疑の核心的な技法であり、私自身の議会質問の在り方を見直す契機となりました。

加えて、現代的な補助ツールとして生成 AI (ChatGPT) の活用可能性にも着目しました。AI は情報収集や事例整理、代替案の検討、質問原稿の推敲、さらには読み上げ練習を通じたリズム改善など、多方面で議員活動を支援することができます。こうした AI の特性を組み合わせれば、セミナーで学んだ「実践的スキル」をより効率的かつ効果的に体得し、質疑力の向上につながれると確信しています。

今回の学びと AI 活用の視点を両輪として、政策を実現するための前向きで建設的な質問を積み重ね、議場での発信力をさらに磨いていきたいと思います。

【 上坂 健司 】

「議員活動に役立つ実践スキル」として、生成 AI の理解と議員活動への応用方法獲得（まず触ってみよう、AI にできて議員にできないこと、効果的な指示の方法と活用事例、質問づくり）を学んだ。所見として、AI は「補助輪」であり、判断はあくまで議員自身であること、うまく利用すれば（5W1H）相当な時間削減になることである。今後に向けては、継続的に使って慣れること、議会全体での活用検討も視野に考え、研究会や特別委員会などの必要性も感じたとともに新たな時代の議員活動に役立つツールである。

【 後藤 寿和 】

今回にセミナーでは、AI をどのように議員活動に活用できるか、その基礎から実践的な事例まで幅広く学ぶことができました。特に印象的だったのは、AI にできることと議員にしかできないことを明確に区別する必要性です。AI は情報整理や下準備に強みを持ちますが、最終的な判断や責任は議員が担わなければならないと感じました。

具体的には、効果的な指示（プロンプト）の与え方について詳しく学びました。指示の基本は「5W1H」ですが、その中でも必ず必要なのは「What」と「How」であると説明されました。

質問の内容を明確に示し、どのように答えてほしいかを具体的に伝えることで、AI からより精度の高い回答を得ることができます。このことは、議員活動における調査や質問作成の効率化に直結するものだと感じました。

一方で、やってはいけないことについても強調されました。特に個人情報の入力

は厳禁であり、また AI に判断を委ねすぎないことが大切です。AI は「番頭」ではなく「参謀」として位置付けるべきであり、最終判断は議員自身が行うべきだという姿勢が重要であると学びました。

さらに、AI から出力された情報はそのまま受け取るのではなく、信頼性の確認、情報の出元チェックを必ず行う必要があると理解しました。

セミナーの中では、講師が実際にチャット GPT と声でやりとりするデモンストレーションもありました。

なかなかすごく流暢に会話をし、しっかりと答えている様を見て、技術の進歩にびっくりしました。

議員の一般質問の下準備や、政策のアイデア整理など、現実の議会活動に役立つ場面がイメージしやすく、非常に実践的でした。

自分自身もセミナー後にホテルに戻って試してみたところ、短時間で資料の整理や質問のたたき台を作ることができ、その進歩の速さに驚かされました。

本セミナーを通じて、生成 AI は議員活動を支える強力な道具となり得る一方で、使い方を誤ると誤情報や判断の誤りにつながるリスクもあることを学びました。

大切なのは、AI を「補助ツール」として活用しつつ、自らの判断力や政策形成力を磨き続けることだと感じました。今後の議会活動において、積極的に生かしていきたいと感じました。

財政問題の取り上げ方

【 上坂 健司 】

「データと現場感覚で考える財政チェック」で、①財政の基本指標（実質単年度収支、将来負担比率、経常収支比率に注目する）。②決算カードの読み方（自主財源と依存財源を鳥の目とアリの目で読む）。③AI の活用法（チャットGPTの活用）。④夕張市の教訓（観光依存、人口減）を学んだ。所見として、財政問題を議会で取り上げる手法を学ぶことができ、大変有意義な講義であった。今後の活用例として、財政弱点の洗い出しや市民生活の影響（小中学校の統廃合、職員の削減、市民サービスカット、税・料金の値上げ）を元に議会質問にTRYしたい。

【 後藤 寿和 】

毎回感じることでしたが、財政は専門的で難しいと受け止められがちですが、今回の内容は「データと現場感覚で考える」という分かりやすい切り口で、議員として財政を避けて通らず向き合う大切さを再認識できました。特に「財政が苦手なんだ」と言い訳することなく、誰もが基本を押さえれば理解できるというメッセージが強く心に残りました。

講座ではまず「財政ここをまず見よう」というポイントが示されました。実際に坂井市の決算カードを見ながら、文言や数値の意味を確認していく作業は、自分のまちの財政を読み解く力を磨く大変良い実践となりました。単なる数値の羅列ではなく、

その背景にどのような課題やストーリーがあるのかを考えることが重要であると感じました。

その中でも注目すべき指標として、実質赤字比率や実質単年度収支が挙げられました。単年度の収支が赤字か黒字かを見極めることは、財政運営の健全性を知る第一歩です。さらに、将来負担比率を確認することで、今後の布石や投資がどの程度リスクを抱えているのかを把握できることを学びました。経常収支比率もまた財政の硬直度を示す重要な指標であり、特に人件費の割合に注目する必要があると理解しました。こうした数値の意味を一つひとつ学んだことで、財政資料が以前より身近に感じられるようになったと感じました。

また、夕張市の事例を引き合いに、財政破綻の兆しをいかに早期に察知するかという視点も印象に残りました。破綻は突然起こるのではなく、必ず足音が聞こえてくる。その兆候を数年間のデータと数値で把握できる力を養うことが、地方議員にとって不可欠だと痛感しました。

さらに、生成 AI を財政分析に活用する方法についても紹介されました。AI は表の作成や数値整理を得意とし、「分析して」「要約して」といったシンプルな指示語を活用することで効果的に使えると学びました。Excel や PDF での出力も可能であり、これまで手作業で時間がかかっていた部分を効率化できるのは大きな利点です。

ただし、AI に任せきりではなく、自ら判断し確認する姿勢が欠かせないことも改めて理解しました。

本セミナーを通じて、財政は難しい専門領域ではなく、データを正しく読み解けば誰でも議論できる分野であると学びました。坂井市の将来を考える上で、財政状況の把握は避けて通れません。学んだ視点を今後の議会質問や政策提案に生かし、市民に分かりやすく財政の現状を伝えていけるよう努めたいと感じました。

人口問題の取り上げ方

【 上坂 健司 】

テーマは「人口減少社会をどう議会でとりあげるか」である。私が9月議会で取り上げる「坂井市ビジョン」のタイムリーな講義であった。ポイントとして、①出生数70万人割れの衝撃。②人口構造の変化。③坂井市の人口推移。④地域差の深刻さ。⑤消滅可能性自治体とは。⑥年齢構成で見る地域の未来。⑦人口減少と地域課題の連動。⑧人口減少を直視し、議会で取り上げる勇気を、であった。所見として、私も、議会で質問と考えているが、人口減少は広範囲・全分野の前提条件なので、戦略的取り組みを考えTRYしたい。

【 後藤 寿和 】

人口減少社会をどのように議会で取り上げるか、データと事例を交えながら学ぶことができ、議員として避けて通れない課題を改めて実感しました。出生数70万人割れ

という衝撃的な現実を起点に、人口減少を直視する姿勢の大切さを強調されたことが印象的でした。

セミナーでは、加速する少子化や人口構造の変化が具体的に示されました。高齢化率の上昇、15 歳未満人口が 10%を下回る現状、75 歳以上人口の急増といった事実は深刻です。また合計特殊出生率の推移では、2022 年の全国平均が 1.26、東京は 1.04、そしてお隣韓国はなんと 0.6 と紹介されました。

人口を維持するために必要な水準が 2.07 であることを踏まえると、現状の厳しさが浮き彫りとなりました。

これらのデータは総務省統計の e-Stat から確認できることも学び、議員として根拠あるデータの裏付けや発言の重要性を改めて感じました。

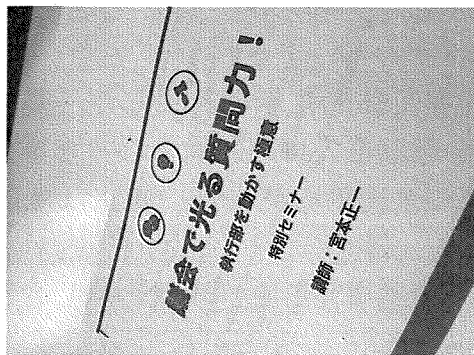
住民への伝え方についても示唆を得ました。危機感を煽るのではなく、データとストーリーを両立させ、将来像と政策をセットで提示することが大切だという視点です。夢と現実の両方を示し、人口減少がもたらす空き家問題、商店街の衰退、学校統廃合といった課題を市民に分かりやすく伝えることが求められます。出生率の数字だけに注目するのではなく、「減る影響」を丁寧に掘り下げることが大切と感じました。

さらに、これからの議員に求められる姿勢についても多くの示唆を受けました。危機感と行動力を備え、データと市民の声を両輪にした提案型の活動が必要です。

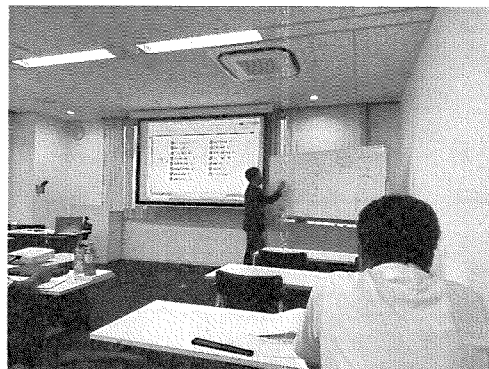
変化の兆しを敏感に捉えるアンテナを持ち、AI や ICT にも柔軟に対応する力が問われています。

自分自身、柔軟な対応力は持っていると感じたし、同時に現実の課題を直視して議会で取り上げる勇気を持つ議員でありたいと改めて思いました。

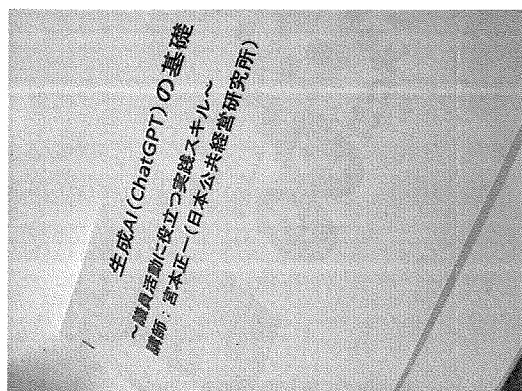
人口減少は「すべての分野の前提条件」であり、このテーマに真剣に向き合うことが地方議会の最も大きな使命の一つだと感じました。



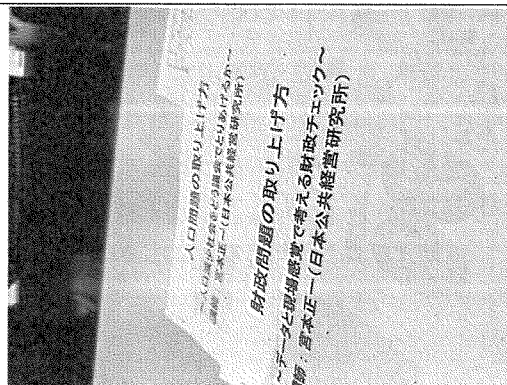
研修資料



研修風景



研修資料



研修資料